

私製航空書簡(2)

永吉 秀夫

変わったところでは、右の1965年規格品。官製品と同じ青枠で、郵便番号の表示のある1968年以降の製品ですが、裏面の認可番号が「東北郵政局：A1号」のようになっています。他でも1965年規格品の多くは、このような番号づけになっています。1965年規格でも前回紹介の「富士屋ホテル」のように、1964年規格で認可されたものをマイナーチェンジしたものは元の番号のままですが、1965年規格で新規承認されたものは英字入り番号なのかもしれません。

この航空書簡は裏面に制作者の名称が書かれていませんが、内側には「日本短波クラブの受信報告書」の様式が印刷されています。会員の便宜用に、こういうものを制作・配布していたのですね。



差出人郵便番号住所氏名
Sender's name, address and postal code

東北郵政局承認第 A1号

東北1号

RECEPTION REPORT

from the member-number JSWC-..... of
JAPAN SHORT WAVE CLUB
日本短波クラブ.....19

Radio.....

Dear Sirs,
I had the pleasure of hearing your station..... on..... kc/s, or
..... metres, on..... 19 from..... to..... G.M.T.

Signal Strength	Interference	Noise	Propagation Disturbance	Overall Merit
5 excellent	5 nil	5 nil	5 nil	5 excellent
4 good	4 slight	4 slight	4 slight	4 good
3 fair	3 moderate	3 moderate	3 moderate	3 fair
2 poor	2 severe	2 severe	2 severe	2 poor
1 barely audible	1 extreme	1 extreme	1 extreme	1 unusable

Rcvr:..... tube,
Ant:..... m. high,
..... m. long,
..... type.

Details of condition :

東北1号の内側

官製航空書簡はその後1975年12月に、「3つ折り3辺糊づけ」の新様式に変更されました。サイズがかなり横長になりましたが、折りたたみ方は東京五輪記念と同じです。このときは1ヶ月の猶予期間ののち、旧様式の航空書簡が使用禁止になり、私製航空書簡も当然新規格に変わりました。



関東A1号

この1976年規格は、その後現在に至るまで維持されています。サイズや裏面文字に、大きな変化はありません。

しかしご覧のように、枠線は実にさまざまです(官製品はすべて青)。また一番下の例のように、表側に絵の入ったものもあります。官製品が絵入りになった1987年以降の製品と思われます。(つづく)



上から順に、東京A3、東京A4、東京A8、東京A17号